

民研

いま、未来を語ろう

すべての子ども・若者に学ぶ喜びと生きる希望を

第32回 全国教育研究交流集会

1日目

全体会 会場・オンライン併用

13:00～17:00

基調報告

講演 谷津賢二さん(映画『荒野に希望の灯をともし』監督)

アフガンに生きた中村哲医師が私たちに遺したもの

——真心、信頼、希望、そして平和

シンポジウム

テーマ せんせいの未来をともにひらく

シンポジスト

工藤祥子さん:過労死等の視点からみる教師の働き方
——命と健康を大切にし安心安全な学校である
ために、今できることを考える

山崎洋介さん:教員の長時間過密労働は労働時間管理
だけで解決するのか

山本由美さん:教師の労働条件は子どもの学習条件
——シカゴの教員組合運動から

交流会 18:00～ 全国教育文化会館 会費:4500円

2日目

分科会 原則 オンライン

10:00～16:00

1. 子ども・若者
2. 憲法と平和教育
3. 教育課程
4. 学校と地域
5. 教師の働き方
6. ジェンダーと教育
7. 特別支援教育

2023年

12月23日 土

24日 日

1日目の全体会は、
全国教育文化会館
とオンラインの併用。

2日目は原則オンライン

詳細はHPで

申し込み

★参加無料 希望者は

12月19日までに下記フォームへ

<https://forms.gle/Cd01fhQcTj69mN6e7>
メール(office@min-ken.org)の場合は
氏名・フリガナ・メールアドレス・所属と
全体会の参加方式、希望する分科会名を
記入して下さい。前日まで
に案内と資料を送ります。



主催

民主教育研究所

東京都千代田区二番町 12-1

全国教育文化会館 5F

Tel 03-3261-1931

Fax 03-3261-1933

office@min-ken.org

<https://www.min-ken.org>



開催形態について

全体会はハイブリッドです。分科会は完全オンライン開催です。

参加費は無料

分科会の概要

- 第1分科会 不安定化する社会の中で、子ども・若者たちの／とともに暮らしをつくる
- 第2分科会 憲法と平和教育
- 第3分科会 教育課程
- 第4分科会 学校と地域を守る
- 第5分科会 教師の働き方
- 第6分科会 ジェンダー平等と教育
- 第7分科会 特別支援教育 後期中等教育・青年期教育を考える

分科会	世話人	趣旨と討論の柱	レポート
第1分科会	不安定化する社会の中で、子ども・若者たちの／とともに暮らしをつくる 馬場久志 (日本薬科大学) 松田洋介 (大東文化大学)	既存の支配的で、かつ現在収縮しつつある企業-学校-家族のトライアングルから排除されたり、そこで不利な立場にいる人たちの居場所や生活をそれぞれのやり方でつくっている方々、また、そうすることで既存の社会のあり方を変えていこうと取り組んでいる報告をもとに、子ども・若者たちが安心した生活を創り出すために何が必要であるかを考えていく	基調提案 松田洋介 (大東文化大学, 民研運営委員) ①「子どもの成長、若者の自立に寄り添って」 (岸田久恵/NPO 法人猫の足あと代表理事) ②「NPO 法人による学校内別室への支援員派遣事業の試み」 (古豊慶彦/NPO 法人子どもの権利オンブズパーソンながさき) ③「グレイゾーンの少年たち」(仮) (酒井裕樹/瀬戸少年院法務教官)

第2分科会	憲法と平和教育	中嶋哲彦 (名古屋大学名誉教授) 波岡知朗 (全日本教職員組合)	教科書には書かれていないウクライナに対するロシアの侵略をどう考え、教室でどのように取り上げるか。平和教材として貴重な『はだしのゲン』を広島市が削除したことをどう捉え、どう乗り越えるか。そして、学校での実践報告をもとに、主権者・平和の担い手をどう育てていくか考える。	①「はだしのゲン削除問題から考えるこれからの平和教育」 (神部泰/全広島教職員組合) ②「14歳が訴える戦争と平和」 (菅原賢一/東京都教組) ③「平和と民主主義の担い手を育てる教育」(中嶋哲彦/民研運営委員) ④(交渉中 高校世界史での平和教育の実践)
第3分科会	教育課程	金馬国晴 (横浜国立大学) 中村清二 (大東文化大学)	テーマ「中学校の評価・評定への統制の現在地」 「今日、大都市圏の中学校の評価・評定は、「説明責任」を口実に、強く歪められ、その公正性が損なわれている。国レベルでは、2019年改訂の指導要録の標準様式において、どの教科・領域でも同じ3観点からなる「資質・能力」を育て、評価するよう制度が変わった。しかし、評価・評定は、ずっと以前から、教育委員会からの実務レベルでの統制で歪められ、半ば「相対評価」となっている。事例をもとにこの問題を考える。	①「中学校の評定の現状と課題」 (金竜太郎/東京都公立中学校) ②「教育実践の中に生きる評価とは(仮)」 (本田伊克/宮城教育大学) ③「3観点評価のひずみと縛りをのりこえる」 (梅原利夫/和光大学名誉教授)
第4分科会	学校と地域を守る	朝岡幸彦 (東京農工大学) 石山雄貴 (鳥取大学) 山本由美 (和光大学)	テーマ 学校統廃合問題を問う、地域の高校存続のために何ができるか 公共施設再編を背景に、全国で増加する小中学校の統廃合、実質的な統廃合である小中一貫校、義務教育学校の開設に対して、各地で保護者、生徒、地域住民による見直し、撤回を求める共同の運動が起きている。特に図書館や公民館など社会教育施設との「複合化」やPFI、PPPなど民営化の手法を用いた新しいタイプの計画が急増している。その動向が激しい東京都の多摩地域の自治体からのレポートを受け対抗軸の可能性を問う。 また全国で高校再編、統廃合計画が進められる中、地域に根ざした高校の在り方、地域「魅力化」などを追及する自治体が増えている。その中で、村が生徒の進学保障のために「公営塾」の取組、地域カリキュラム実践などを進める長野県阿智村のケース、北海道でのオンライン「遠隔地授業」の実態などから、地域の高校のあり方を考えていく。	基調提案 増加する学校統廃合、施設「複合化」「民営化」をどうとらえる (山本由美/和光大学、民研副代表) ①「高校存続のために阿智村では、村営塾、地域に開かれた教育課程」(黒柳紀春氏/長野県阿智村教育長) ②「北海道教委による遠隔地配信授業と地域の高校存続について(仮)」 (道端剛樹氏/北海道高教組) ③「東京多摩地域の学校統廃合とコミュニティ・スクール 町田市のケースから」 (荒井利行/元保護者 本町田地区小中学校の存続を求める会) 総括的報告 石山雄貴(鳥取大学)

第5分科会	教師の働き方	高橋哲 (大阪大学) 中村雅子 (桜美林大学)	給特法を廃す。本当に「この道しかない」のか。一方で、子どものためと「やりがい搾取」のように、無限定にタダ働きをさせられることを野放しにしてきた主因に給特法があることは間違いない事実でもある。教員の多忙はどのように作られているのか、それを変えていく道筋はどこにあるのかを探る。午前中は教員の働き方改革のなかで何が起きているのかを取材してこられた大久保記者(教育新聞)と本分科会世話人による基調報告。午後は公立学校の現職教員の報告と、参加者による議論、交流を行う。	午前 ① 「給特法の改廃論を考える～現場で起こったこと」 (大久保昂/教育新聞記者) ② 教育振興基本計画と教員の働き方 (石垣雅也/滋賀県公立小学校教員) 午後 公立学校教員による報告(2名)
第6分科会	ジェンダー平等と教育	杉田真衣 (東京都立大学)	ジェンダーフリー・性教育バッシングから20年経つ。学校における管理統制は強まり、実践現場はいまも厳しい状況にあるが、そうしたなかでも続けられてきた取り組みや、新たに生み出されている実践がある。本分科会では、バッシングの前から地道に着実に続けられてきたサークル活動・組合活動とそれを土台として生まれた実践、そして生徒をも縛る「男性性」という社会課題を読み解きながら創造された実践から学ぶことで、今後の実践の展望を探る。	問題提起 (橋本紀子/女子栄養大学名誉教授) ① 性の多様性の学習づくりとそれを支える活動 (内田智恵・中西美紀・中西早苗/性教協京都北部サークル) ② 男子高校生の「援助希求」行動向上のために (澤田あや子/公立高校)
第7分科会	後期中等教育・青年期教育を考える	河合隆平 (東京都立大学)	特別支援教育では就労自立を重視する教育目標が掲げられ、とくに高等部ではキャリア教育や各種の技能検定を通じて生徒たちを追い込んでいる。 今回は特別支援学校高等部における軽度知的障害のある生徒の実態や実践報告を受けて、就労自立に偏重した高等部教育の現状を分析しながら、障害のある場合の後期中等教育・青年期教育について議論したい。	① 「特別支援学校高等部の現状と問題提起」 (河合隆平/東京都立大学) ② 「生活・労働・学びの主人公を育てるキャリア教育をめざして」 (山口桂/東京都特別支援学校教員) ③ 「就労に向き合えないA君の願いと指導アプローチ」 (村田豊/神奈川県特別支援学校教員)

※世話人は民主教育研究所運営委員



・全体会・分科会申し込みはホームページからできます。また、メールにて office@min-ken.org 申し込まれる方はお名前、フリガナ、メールアドレス、所属、電話番号、全体会の参加方式(会場又はオンライン)、希望分科会名を記して送信してください。

・世話人・報告者の方も申し込みを必ず行って下さい。申し込みは12月19日(火)厳守です。

・参加申し込み者にはEmailで、全体会と7つの分科会のzoomURLを前日までにお送りします。

・複数の分科会に参加することができます。分科会は12月24日(日)10時から16時です。全体会・分科会終了後に全体会・分科会の感想を office@min-ken.org にお寄せ下さい。

